

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1090200237		
法人名	ケアサプライシステムズ 株式会社		
事業所名	グループホームすみれ		
所在地	高崎市新保町377		
自己評価作成日	令和5年9月10日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様が笑顔で穏やかに生活していただけるように、表情、仕草、言葉などの変化を感じとり、ご利用者様一人ひとりに耳を傾け意思を尊重しそのひとらしく活力ある生活がおくれるように務めている。季節ごとの行事や外出、ご家族との関わりを大切にしている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/10/index.php
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員が利用者の状態に合わせた声掛けや傾聴を意識し丁寧な対応に努められる様、安全面も考慮した環境の見直しを行い、利用者がその人らしく心穏やかに過ごしながら、希望や気持ちを表現しやすい支援の取り組みに励んでいる。コロナ禍での行動制限も緩和され、7月からは運営推進会議も直接開催となり、今後の協力体制の新たな構築が期待される。10月からは家族の面会や外出も制限がなくなり、家族が安心してもらえる情報提供の方法を工夫する事や、今後は利用者の意欲を喚起する支援として個別の外出も取り入れ、利用者の思いに気づいていきたいと考えている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど		
所在地	群馬県高崎市八千代町三丁目9番8号		
訪問調査日	令和5年10月 4日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	1日1回出勤者と、毎月1回職員会議にて全職員と読み上げ共有している。	今年度はホーム長が交代し、新たな理念を掲げた。利用者への丁寧な声掛けや傾聴の様子から理念を意識した支援ができてきているか確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のサロンに訪問し地域の方々や他事業所との交流の場を設けていたが、コロナ禍により実施できていない。令和5年7月より運営推進会議が再開され、ご家族様、地域の役員の方々、市職員の方に参加していただいている。	コロナ禍での行動制限の緩和により、以前のように今後は地域との関わりを増やしていきたいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議において、地域役員の方々やご家族と情報を交換し、ご理解いただけるよう務めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現状報告、行事や活動状況の報告を行い、利用者様、ご家族様、地域役員の方々、市職員の方に質疑応答を行い、情報を共有し、サービスの向上に反映できるよう務めている。	今年度7月から書面開催から直接開催になり、行政担当者・地域代表者・複数の家族が参加している。事業所の活動状況や意見交換を行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加していただき、貴重なご意見を頂戴し、職員会議にて他職員に発信している。	法人の担当課長が行政への報告や情報交換を行っている。介護保険の更新は家族が行っている。認定調査の立ち合いは事業所で支援している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議にて身体拘束委員会を開き、身体拘束をしないケアを心がけている。玄関の施錠について、ご家族の意見を考慮しご利用者様の状況を踏まえ取り組み、要望があれば職員と一緒に出られるようにしている。	玄関の施錠はしているが、利用者の様子にあわせ、玄関前にいる時には声掛けをして一緒に出ている。身体拘束に関する学習会をし、身体拘束の無い支援をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議の身体拘束委員会にて高齢者虐待マニュアルを理解及び周知徹底し、話し合いの場を設け、職員一人一人が虐待防止の意識を高めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議にて学ぶ機会を設け活用できるよう取り組む。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、互いに確認しながら理解、納得していただけるよう説明をさせていただく。また改定毎に説明し、疑問点などあればその都度説明させていただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様、ご利用者様に意見や要望を質疑できる環境に配慮し、職員会議にて意見や要望を反映できるようにしている。	家族には電話連絡時に情報提供をし意見を聞いている。便りは3か月に1度発行している。利用者からは日常的に髪を切りたい、洋服が欲しいなど、様々な要望が出され、家族に連絡し、協力してもらっている。	家族は協力的で具体的な要望も出されており、日頃の生活状況を個別に知らせ、活発にやり取りができるよう情報提供の方法を工夫してはいかがか。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議時や面談の場にて、相談や意見の提案ができ、またその意見が反映できるよう心がけている。	毎月職員会議を開き、支援方法など職員で具体的に話し合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課や職員に担当業務をつくり、やりがいや達成感により向上心がもてるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員会議の中で議題に取り入れケアの向上に取り組み、また法人内の研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修などで同業者との交流をはかりたいが、コロナ禍によりオンライン研修がおもとなり、交流の場が設けられていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時の面談にて、困っていること、要望など伺い信頼関係を築いていけるよう務めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の状態確認に訪問し、困っていること、要望などを伺い、入居までにより良い関係作りができるよう務めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前に状態確認に伺いその中でお話を聞かせて頂き、ホームの馴染んでいただけるような環境づくりに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	今まで生活してきた週間などを聞いた段階でカンファレンスを開きケアプランなどに反映している。ご利用者様の得意な分野で職員と協力し、お手伝いしていただけるよう努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が来苑された際、日々の変化について報告、相談させていただいている。ご家族にいつでも来苑していただける雰囲気づくり、運営推進会議への参加の声掛りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族、地域の方々が気軽に来苑していただけるような雰囲気づくり、来苑時には気持ちよく過ごしていただけるよう務めている。	洗濯たたみやお盆ふきなどできる事を続けてもらったり、新聞を読んだりカラオケを楽しんでもらっている。外出や面会制限も緩和され、毎週面会に来所している家族や家族と外出している利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体操の時間やレクリエーションの時間を利用してご利用者様同士コミュニケーションを図れる様支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後も、来苑、連絡していただける環境づくりに努め、ご意見は真摯に応じるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時、生活歴など詳しく聞き、今までの暮らし方やご家族様のご意向を聞き、日々の関わりの中で不安をくみカンファレンスの議題にあげている。	「話を聞いてほしい」と日常的に具体的な言葉で要望を出される利用者も多く、本人の言葉を職員で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居日前や入居日に管理者やケアマネが今までの生き方や趣味などを聞き職員全員で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケア記録に日々の詳細を記録し一日の生活を把握できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月カンファレンスを開きケア記録に記載し職員間で情報を共有している。	記録や日ごりの様子をもとに、毎月モニタリングを行っている。3カ月ごとに担当者会議を開き、利用者の希望や家族からの心配や要望を確認し、計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子をケア記録に記載し職員間で情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コミュニケーションをマメに取り日々の訴えを傾聴しケア記録に記載し職員間で共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出を計画、実践し開放的な生活環境づくりに努める。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様、ご利用者様の意見を反映し、医師との意見交換が実施できるように務めている。また、かかりつけ医の医療が受けられるようにしている。	かかりつけ医の受診方法を説明し、選択してもらっている。かかりつけ医の受診は家族に付き添ってもらっている。歯科受診は希望にあわせ支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日バイタル測定を施行、異変時には看護師へ連絡し指示を受けている。週に一度の訪問看護師の来苑時やケアワーカーに相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族様や入院先の病院に連絡をしご利用者様の状態を確認し、先生や看護師やケアワーカーとの情報交換に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご利用者様にとり居心地のいい場所はどこか考え、ご家族様と話し、その方に適したケアが行えるように務めている。	看取りの支援も行っていることを伝えている。状況に応じ、協力医や訪問看護と連携し支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訪問看護師に日頃からアドバイスを受けている。職員会議では緊急時の対応について勉強している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立ち合いの消防訓練を年2回、自主消防訓練を毎月施行している。	直近1年で2回の法定訓練と自主訓練をしている。3日分の食品の備蓄とコンロなどの備品、排泄用品は常備用意している。	自主訓練について、毎回記録に残し、訓練の振り返りや課題を検討してはいかがか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格に合わせた話し方、言葉選びに配慮している。排泄などの介入が必要な時には人格を尊重した言葉選びをするよう務めている。	利用者の意思をその都度確認している。周囲に配慮し一人一人に合わせた言葉や声掛けの仕方を職員で話し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや望みを聞き出せるような声かけをするよう配慮し、何事も職員が決めるのではなくご利用者様に意見決定をして頂き無理強いはいしないよう心かけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースに合わせたケアを行い、ご利用者様の意見を尊重し思うように過ごしていただけるような環境づくりに務めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみやオシャレが出来る様環境作りを心かけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在はパレット(配食業者)を利用している。月に1、2回程度行事の際には季節を味わえるような料理を提供している。	日々の食事は業者から届く食材を調理して提供している。行事食や誕生日会には職員で馴染みの食事を考えて提供している。敬老会では峠の釜めしを企画した。お茶の時間の飲み物は好きな物を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事以外にも10時と15時に水分を提供し好みの飲み物を個別に用意したり食事量、水分量を実施記録に記載している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い自身で歯磨きができない方は介助させていただき清潔を心がけている。又希望があれば歯科往診を依頼している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレで排泄できるよう自尊心に配慮し声掛けをしている。夜間は安眠できるよう、それぞれご利用者様にあわせた排泄方法を選んでいる。	トイレでの排泄を支援している。利用者の意思を大事にしながら、状況に合わせて声掛け誘導をしている。夜間のみベット上で支援している利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々水分にオリゴ糖をいれたり無理のないように水分を多く摂取して頂く様にしている。便秘傾向なご利用者様について訪問看護師に連絡相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴前に必ず声掛けを行い無理強いないで意思を確認してから入浴を施行している。入浴剤を入れゆっくり入浴していただいている。	現在は入浴を拒否する利用者はおらず、週2回午前中に入浴支援をしている。一番に入浴を希望する利用者もいる。	入浴も利用者の選択ができる場面であり、入浴日に拘らず、入浴できる声掛けをしてはどうか。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体調、生活習慣に合わせて休息できるように配慮している。寝具など家庭で使用していたものを持参していただき安眠していただける環境づくりに務めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬情報を職員間で確認共有している。往診内容は訪問看護師が連携ノートに記載し職員が内容を把握している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時ご家族から生活歴を聞き、嗜好、趣味など得た情報を参考にしケアに活かしている。ご利用者様の特性に合わせたお手伝いをしていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	テラスにて外気浴や洗濯物干しを施行。お花見などの外出を計画している。	テラスで外気浴はしているが、コロナ禍での外出自粛の取り組みのまま、事業所としての外出は実施していない。今後は個別での外出を取り入れ、忘れていた感情や意欲の喚起につなげたいと思っている。	外出や外気に触れることで新鮮な気持ちや刺激につながるため、個別の外出支援やベランダを利用した活動も検討してはどうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設で管理しご家族様へ毎月会計報告と領収書を配布している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙の返信や希望に応じていつでも電話ができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた壁画の作成、写真などを掲示している。室内の温度設定に配慮し窓を開けたりして調整している。また匂いにも気を付けご利用様が心地よく過ごせるよう務めている。	共用空間には切り花が飾られている。落ち着いた大人のしつらえで、ベランダに洗濯物を干すこともできる。	利用者が掲示されたものを見やすいよう、利用者の目線を考慮した掲示の仕方を取り入れてはいかがか。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにてご利用様が集い楽しくお喋りをしている。孤立感を感じないような話題づくりに職員が配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前にご家族様へ使いなれた家具や飾りものなどの持ち込みが可能な事をお伝えしている。ご自宅と同様に安心して生活ができるような環境づくりに務めている。	居室には使い慣れた物を自由に持参してもらえる様伝えている。毎日自分で洗った靴下を干している利用者もいる。	家族の面会も今後は増えることが予測でき、利用者が安心して過ごせる個性のある居室づくりを家族と取り組んではいかがか。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所がわかりやすいように張り紙をしている。移動時ふらつきがある方には手すりを使用していただくように声掛けをし転倒防止に務めている。		